多剤耐性緑膿菌が保有する メタロ－β－ラクタマーゼ遺伝子の解析

篠　田　陽　子[1,2)]　　富　田　亜紀子[1,2)]　　安　原　　努[1)]
三　辺　武　幸[2)]

１）昭和大学医学部臨床病理学教室　２）昭和大学藤が丘病院耳鼻咽喉科

近年耳鼻咽喉科領域で問題となっている難治性の耐性緑膿菌感染症への対応の目的で，多剤耐性緑膿菌のゲノム型解析と耐性遺伝子の解析を行った．2003年10月～2004年10月に昭和大学病院で検出された緑膿菌1000株中多剤耐性緑膿菌は18株(1.8%)検出された．この18株と追跡の目的で2005年１～４月に検出された６株の計24株を対象とし解析を行ったところ，24株中12株が同一ゲノム型を示し，院内感染が示唆された．また，20株では，多様のβ-ラクタム剤に耐性獲得を引き起こすメタロ－β-ラクタマーゼ産生が認められ，それらはすべてblaIMP遺伝子であった．さらにblaIMP遺伝子の塩基配列を決定したところ，20株中２株では日本国内で主に検出されるIMP－１，残り18株にはIMP－10が認められた．この結果から，同一ゲノム株が院内に定着し独立して耐性遺伝子を獲得している現象が明らかとなった．